

太宰治「令嬢アユ」論—〈令嬢〉という装いと身体

王盈文

應用日語學系

人文社會學院

ywang112@chu.edu.tw

摘要

本論文は太宰治「令嬢アユ」を通して、戦時中の日本女性をめぐるイメージと身体の問題を考察するものである。まず、テキストで描かれたヒロインの造形に着目して、当時の女性雑誌に多く見られる化粧品広告と、その巻頭のグラビアをもとに、女性イメージの運用などを分析した。それで、戦時中、中上流階級の女性のイメージが一般女性の模範として消費、利用されていることがわかった。次に、戦争に協力するヒロインの行動と、その得られた評価を中心に、戦争がもたらした、女性の身体と階級の問題を考察した。結論として、下層の人が一般の人より戦争協力を強いられる可能性と、戦争の影響で女性の身体が子を生むのと男性の娯楽用のと二分化されていることをあげられる。

關鍵字：戦争、女性、イメージ、身体、模倣